

Ⅳ-55

ショッピングモールにおけるベンチ配置計画に関する基礎的研究

横浜国立大学 学生員 岩上 智裕

横浜国立大学 正 員 中村 文彦

横浜国立大学 フェロー 大蔵 泉

1. はじめに

ショッピングモール整備事業が、都心部の再生という大命題の中で強力で有効な手だてとして位置づけられ世界の各都市で行われている。しかし、ショッピングモールの特徴でもあるストリートファニチャーの配置に関し現時点では研究がなされておらず、配置時に参考になるような指標がない。よって、その配置は計画者の意志に委ねられており、必ずしも利用しやすい配置になっているとは限らず、有効な利用がなされているとはいえない。そこで本研究では、イセザキモールを対象として、ストリートファニチャーの中でも特にベンチ類に注目し、その利用特性について分析・検討を行い、その形状・配置に関し計画時に利用することのできる有効な計画基礎情報の提供を目的とする。

2. 分析方針

各ベンチにより利用傾向が異なると仮定すると、その要因には、ベンチの種類、配置等のベンチに関する要因及び利用者の属性、グループ人数等の利用者に関する要因の2つが考えられる。これらの要因についてそれぞれ分析を行うことで、各ベンチの特性を明らかにする。

分析には、ビデオ撮影により得られたデータを使用することとする。ただし、観測はイセザキモールにおいて①全体の利用状況を把握するための瞬間的な利用状況の観測、②同種類ベンチの配置の違いによる利用実態の相違を探索するための定点観測(①の結果を踏まえたものとする)の2つの方法で行い、これらより得られたデータをもとに、各ベンチの利用特性の違いについて分析を行う。

3. 分析結果

①ベンチ種類別利用特性(観測①)

イセザキモールには計7種類のベンチ類(写真-1)があり、各ベンチ種類ごとの利用人数を瞬間利用状況観測のデータよりまとめると図-1のようになる。これより、利用者に好まれるベンチは視覚的にベンチと認識できるベンチだといえる。

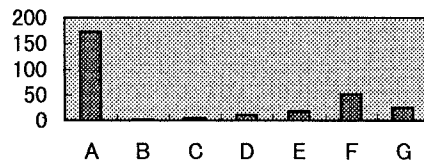


図-1 ベンチ種類別利用人数

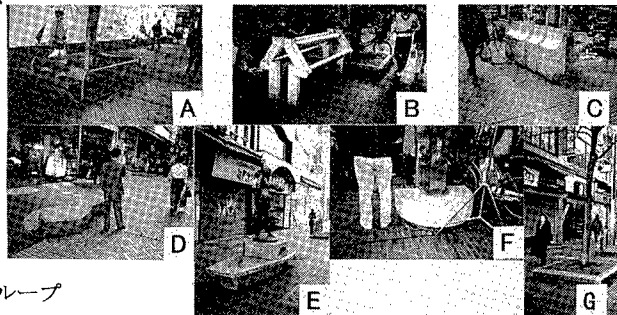


写真1

②配置別利用特性(観測②)

①で最も利用されるベンチに対し、配置による相違を調べることを目的とし、配置の違いにより5つの観測点(表-1)を選出し、定点観測を行った。これより各ベンチにおける利用人数と平均利用時間を算出し図-3にまとめるとともに、稼働率も算出し表-3にまとめた。また、各ベンチについて利用時間分布を調べた。(図-4に例を示す)これらより、配置により利用人数、平均利用時間、稼働率に相違がある事が分かり、人の出入りの多い店舗付近(図-3の*)で利用者が多く利用時間が比較的に短いということ、また、人の出入りの少ない店舗付

キーワード: ショッピングモール、ベンチ、配置計画

連絡先: 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 Tel: 045-339-4039

近では逆のことがいえる。

表一 定点撮影地点概要

ベンチ番号	地点概要	配置特性	備考
I	丸井斜め前	大型店の斜め前	
II	有隣堂前	大型店の前	
III-I	松坂屋西館跡地前		店舗閉店
III-II	"		"
IV	かばん店前	斜め前に本屋あり	信号付き交差点そば

表二 各ベンチの稼働率

ベンチ番号	I	II	III-I	III-II	IV
稼働率	37.4%	65.5%	41.2%	60.5%	51.3%

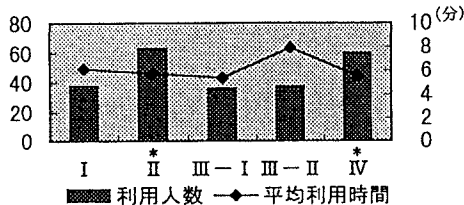


図-3 各ベンチの利用人数と平均利用時間

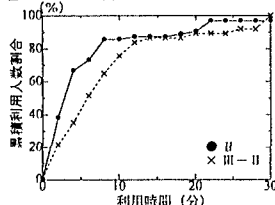


図-4 利用時間累積曲線(II、III-IIの例)

③利用者特性分析

定点観測のデータをもとに、ベンチ上での利用者の行動を休憩系、目的系、グループ系の3つに分類し、利用人数と平均利用時間についてまとめた。例として、①について図-5に示す。これらからでは行動による利用時間の違いがあるとはいえない。

また、利用者を単独利用者とグループ利用者に分け利用時間累積曲線(図-6)を考えた。これよりグループ利用者の方が、20分以上の利用者の割合が10%ほど多く、利用時間が単独利用者より長い傾向にあることがわかる。

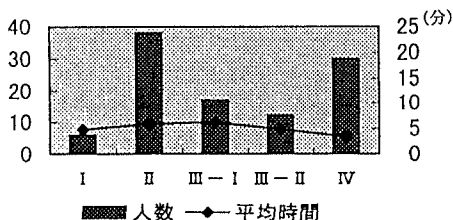


図-5 行動①の人数と平均利用時間

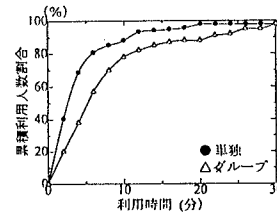


図-6 利用時間累積曲線(単独、グループ)

平均利用時間
単独 4.33分
グループ 6.95分

4. ベンチ配置計画フローの提案

ショッピングモールにストリートファニチャーを配置する際のフローチャートを図-7に示す。本研究はこの中の利用実態調査及び利用特性分析を取り扱うものとする。また、計画時の参考指標作成のためには、本研究の結果を踏まえ様々な配置での同様の考察を行うと共に、交通量と利用者の関係を明らかにすること及び滞留形成についても検討すべきであろう。

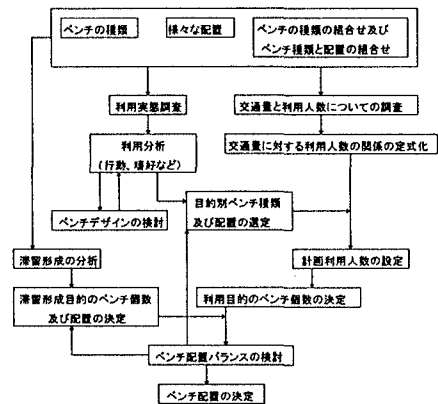


図-7 ベンチ配置計画の流れ

5. 結論

①ベンチの種類に関しては、視覚的にベンチと認識できるものが利用される。

②配置に関しては、周辺店舗の影響が大きく、出入りの多い店舗付近では利用者が多く利用時間が比較的短く、出入りの少ない店舗周辺では逆のことがいえる。

③利用者特性については、グループ利用者の利用時間は比較的最長いこと、行動により何か特別な傾向があるわけではないことがいえる。

(参考文献)

- 1) 林・材野: 広場の空間におけるストリートファニチャーに関する利用者の対応行動、第29回日本都市計画学会学術研究論文集(1994)